

学校目標・経営方針	校訓「至誠無息」をあらゆる生活の中での心得として、常に目標や理想を高く掲げ、真摯に生きる生徒の育成
-----------	---

山梨県立山梨高等学校校長 清水 規与美

本年度の重点目標	I 学びの本質に迫り、自ら考え、判断し、表現できる生徒の育成
	II 誇りと気概を持ち、自他を敬愛する豊かな心を持つ生徒の育成
	III 生命や人権を尊重し、心身ともにたくましい生徒の育成
	IV 地域や保護者に信頼される学校づくり

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価						
番号	評価項目	本年度の重点目標 具体的方策	方策の評価指標	年度末評価(2月1日現在)		
				自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	自ら考え、判断し、表現できる生徒の育成を目指す、個別最適な学びと協働的な学びの充実	①ICTの活用等による個に応じた指導の充実 ②学習意欲を高め、予習、授業、復習を軸とした学習習慣の確立につながる学習評価の実践 ③生徒同士や多様な他者との協働による、より良い学びの生成のための探究的な学習活動の充実	学校評価アンケート、授業アンケート 学校評価アンケート、授業アンケート、定期試験 TS事後アンケート、ポートフォリオ作成状況	・ICT機器を活用した指導の充実に向けて、職員研修会を2回実施した。 ・昨年度、観点別評価の実施において様々な課題も出てきたことを受け、今年度、新たな運用方法で実施し、より生徒の学習実態に合った評価が可能となった。また、生徒が見通しを持って計画的に学習に取り組めるよう、シラバスの作成・提示方法も変更した。 ・校外学習や「総合的な探究の時間」などを通して、生徒同士や外部の方と探究的な活動を実施することができ、学びを深めることができた。	A	・ICT支援員を活用して、授業等でのICTの活用方法や指導に役立つ新たなツールの情報提供、研修会の実施などの取り組みを積極的に、個別最適な学習の充実を図る。 ・今年度実施の新しい観点別評価の運用方法について、年度末での検証をしっかりと行い、評価精度と学習効果の向上に繋げていく。 ・外部との交流活動をさらに促進し、協働的、探究的な学習活動を充実させる。
2	誇りと気概を持ち、多様化する価値観を受け入れながら自他を敬愛する豊かな心を持つ生徒の育成	①朝読書や学校図書館等の積極的な利活用による読書活動の充実 ②自己有用感・自己効力感を育む多様な体験活動の推進 ③主権者として意欲的に社会参画する力を醸成するためのクロスカリキュラムの推進	朝の読書アンケート、図書館利用・貸出状況の調査 ボランティア活動状況及びTS事後アンケート 学校評価アンケート、授業アンケート	・図書館利用者数も年々増加し、約8割の生徒が朝読書に積極的に取り組んでいるとのアンケート結果も出ており、読書活動の活性化に少しずつ繋がってきた。 ・ボランティア活動参加者も増加傾向にあり活動の推進に繋がった。また、昨年度の反省にもあった活動の情報発信もHPを通じて行うことができた。 ・授業の中で主権者教育を行ってはいるが、組織的な取り組みを推進することができなかった。	B	・学校図書館の利用をさらに促す取り組みについて検討していく。 ・年々高校へのボランティア要請が増える中、高校生が取り組む活動としてふさわしいものかの見極めも必要である。 ・主権者教育は、公民科だけでなく、教科横断的に組織的な取り組みを検討していく。
3	生命や人権を尊重し、心身共にたくましい生徒の育成	①感染症対策も踏まえた、健康で活力ある生活を送る土台となる基本的な生活習慣の確立 ②他者と協働してより良いものを創り上げる生徒会活動・部活動の推進 ③命を守る「自助・共助」の行動につなげる安全・防災教育の推進	学校評価アンケート 学校評価アンケート、生徒会誌による活動状況の検証 学校評価アンケート、行事の検証	・学校全体で感染症対策に取り組むことができた。校内での学校評価アンケート結果では、職員、生徒ともに高い評価であった。 ・昨年度の課題「地域と交流できる協働体制を構築」を受け、今年度は生徒会活動の一環として、12月に加納岩小学校の放課後学童のお手伝いボランティアと学童の児童を招いてのクリスマス会を実施した。 ・山梨市防災危機管理課にご協力いただき、2学年の生徒に対し段ボールベッド・簡易テントの設置・撤去体験教室と講演会を実施した。	A	・「食事や睡眠時間など健康を意識して生活する」の結果は、特に保護者で低めの評価となっている。生活習慣の確立について家庭と協力していく必要がある。 ・来年度は、小学校に加えて幼稚園との交流も計画し、更にろう学校との交流も発展させていく。 ・今後も被災地支援ボランティアも含め、多様な形で安全・防災教育を組織的に行っていく。
4	地域や保護者に信頼される学校づくりの推進	①ホームページ等を利用した定期的な情報発信や学校訪問等による広報活動の充実 ②地域の行事やボランティア活動への積極的な参加 ③教員の働き方改革の取組として、外部人材の活用による校務の精選・効率化	学校評価アンケート、広報物の検証、オプンスカールへの参加状況 ボランティア活動状況、学校評価アンケート 外部人材活用実績、学校評価アンケート	・ほぼ毎日更新する学校ホームページや、広報誌等により、学校外部への情報発信に努めた。 ・部活単位で地域の行事等に参加する機会が増え、地域との関係を深めることができた。 ・今年度、部活動において地域の専門家やOB等の外部指導者を増やし、業務の軽減を図った。	B	・保護者や地域の方々への情報発信手段として、他の方法についても検討していく。 ・地域との信頼関係づくりのため、地域の活動にできる限り協力していく方向で前向きに検討していく。 ・週休日の業務のあり方について検討していく必要がある。

学校関係者評価	
実施日 (令和7年2月17日)	
評価	意見・要望等
4	・生徒が自ら使い方を身につけていく仕組みを考えていく必要がある。 ・なによりも先生方が明るく楽しく生徒と関わることで生徒の前向きな取り組みにつながると思います。先生も楽しいと思える授業が大切だと思います。 ・外部との交流活動をして、何が深まったのか共有したり確認していくことが大切である。 ・生徒同士の心をつなぐ学園祭を長く続けてほしい。 ・数字で表せない評価をどうしていくのが難しいと思います。数字で表せるもので評価する工夫が必要である。
4	・読書で様々な知識や考え方を得ることができるので、図書館の利用者が増えることは素晴らしいです。 ・図書館利用者数の増加に加えて、目的がなくなった図書館の利用方法を考えていくことも大切です。 ・高校生のボランティアはあくまでも教育の一環として行われるべきであり、子どもたちに過剰な期待はかけてはならないと思います。 ・主権者教育はあえてするものなのでしょうか。 ・図書館利用者が増加しているのは学校の取り組みがうまくいっている表われです。さらに読書の必要性や効果を生徒が感じられる取り組みにも力を入れられると良いと思います。
4	・家庭との連携は大切だと思います。というより家庭の役割は重要なので保護者への啓蒙も必要だと思います。 ・幼稚園、小学校、ろう学校との交流はとてもいい活動だと思います。生徒の自発的な活動をこれからも仕組んでほしいです。 ・被災地ボランティアは素晴らしい活動です。その経験を地域に還元していくことが大切です。 ・吹奏楽部の地域での活動が素晴らしいです。近隣の中学校との連携した活動ができると良いと思います。 ・地域との交流は、生徒が社会に必要な資質を身につけるのにとっても大切な活動だと思います。
4	・これだけSNSが普及しても、広く知らせていくことには難しさがありますが、発信し続けることの意義は大きいと思います。地道な活動の継続が大切です。 ・広報活動は、学校を知ってもらい入学希望者を増やすために重要だと思います。 ・ホームページが常に更新されていて、今学校でどんなことが行われているのかがよく分かってよいと思います。